

令和元年度 長寿の里・十四山 事業報告

《全体》

令和元年度の年間目標「地域と繋がり助け合う、開かれた施設」をもとに、提供出来るものを考え行動した。認知症カフェをはじめ、認知症地域支援推進員として広く活動することで施設の認知度が上がった。防災活動へも積極的に参加し、地域住民との距離を縮めることが出来た。また、介護ロボットを各階に導入したことで、入居者や職員にやさしい職場環境が提供でき人材定着できた。

《特養》

男性…23名（平均年齢 84.4 歳）、女性…70名（平均年齢 85.1 歳）
平均介護度…4.0、年間稼働率…98.9%、看取り件数…31件
新規入居者の重度化や重度の認知症者が増え、看取り件数が2年続けて30件を超えている。昨年度より課題としていた入居待機者の確保が出来た事で、入れ替わりがある中、blankを最小限に抑え安定稼働につなぐ事が出来た。また重度化に対応できるよう介護ロボットを積極的に導入し、職員の身体的精神的負担の軽減を図った。

《ショート》

7床と限られたベッド数と、入院や退居後の空床を埋めるなど特養と連携して稼働出来た。利用者ニーズに合わせた個別ケアに力を入れ、個別若しくは集団機能訓練を集中して行い、自立支援出来るよう行った。

《デイ》

継続して積極的に営業を行い、利用者確保に努め、事業所規模を上げることが出来た。今後より一層の利用者確保に努力する。外部研修へ参加させる事で個々のスキルが上がり、また刺激を受け感じ取ることで、新たな介護方法や訓練内容の発想につながった。記録システムを導入した事で記録の時間が減り、その分を利用者と関わる時間としたことで、きめ細やかなサービスにつなげる事が出来た。

《居宅》

認知症カフェを活用し、本人や家族、介護支援専門員と情報交換ができ、地域のニーズを吸い上げ、自施設のサービス利用につなぎ安定稼働につながった。弥富市や海南病院と継続して連携を強化していく。